

第3回推進会議の発言要旨 ※メールで提出された及川委員のご意見も掲載

【大隅委員長】

- 仙台に人が来て、残って、その方々が暮らしやすい環境を実現する、その全部を目指すのがダイバーシティ推進の核だと思う。
- 「デジタルをはじめとしたさまざまな技術の活用」に、発信力を高めるといった記載を少し付け加えてはどうか。
- これまでの取り組みを一覧にまとめ、視点ごとに施策をまとめる方法もあると思う。仙台市がこれまでこんなにやってきたということを改めて振り返ること自体、とても大事なことはないかと思う。

【石井副委員長】

- 「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」というのは良く、大事なフレーズだと思う。しかしながら、ダイバーシティだけではなく、例えば“高齢化社会におけるまちづくり”などでも通用する言葉なので、「仙台市が目指すダイバーシティの状態像」をきちんと示した方がよいのではないか。
- 「ちがひ」への理解や尊重といった表記が体言止めになっているが、これを動詞で「する」や「できる」などに変えることで、仙台市がこれから前に進んでいくという強い意思表示につながるのではないか。

【宇田川委員】

- 「世界に選ばれる」という表現は、「世界」が主体と見えてしまうため、例えば「世界の中から選ばれる」や「あらゆる人から選ばれる」といった、様々な人が主体になるという表現だと良いと思う。
- 指針に関連する KPI の設定や公表についても、前向きに取り組んでいただきたい。

【及川委員】

- 「世界を見据え」という言葉は未来につながる良い言葉だが、世界の何を見据えているのかが分かりにくいと感じた。
- 視点1・2は特に共感したが、ジェンダーに関する記載がなかったのが残念だと思った。
- 視点1①の不利益をなくすという項目に、「アンコンシャス・バイアスの削除・ジェンダー・障害・外国人・性自認」という具体的な項目をいれてみてはどうか。あるいは、視点4②の無意識の思い込みへの気づきや固定観念の払拭の項目を最初の視点1に持ってくるも良いのではないか
- 「対話交流の場をつくる」という表現を「対話交流の場を作り、個人や組織(団体)の成長につなげる」など、成長や発展をイメージできる言葉を入れて表現することも良いのではないかと思った。

【小林委員】

- 「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」という表現は重要なので前文に入れてはどうか。
- 「ダイバーシティまちづくり」の定義が「仙台らしいダイバーシティまちづくり」の定義と誤解される可能性があるため、記載方法などを検討した方が良い。
- 「掛け合わせ」というタイトルがイメージしづらい。例えば「掛け合わせによる革新的な産業創出」など、まちの力や経済の発展につながるようなタイトルにしてはどうか。
- 「発表の機会・表現の場」は「掛け合わせ」ではなく、「対話・交流の場をつくる」に位置付けるのが適当ではないか。
- 「革新的な産業を創出」とするのであれば、その産業創出の主体となる「スタートアップ企業」を文言として入れてほしい。
- 「中小企業への支援や起業家の育成を強化」が先頭に来ているが、ダイバーシティとつながりがないのではという印象を受ける。もっと「グローバル化を支援する」といったダイバーシティとの関連性のある表現を入れたほうが良いのではないか。
- 「掛け合わせ」のところに「循環が生まれる」といった文言は入れてもらいたい。産業創出により若者や海外からの人が集まり、さらに掛け合わされるといった好循環を示せるとまちが発展し、変わっていきそうだなという雰囲気を作れると思う。

【小宮委員】

- 「世界」という言葉について、特定の人や国を意識しているのかを確認したい。仙台が何に遅れていて、どのような到達を目指したいのか、それとも誰からも選ばれる世界を目指すのか、人によって受け取る印象が異なると思う。
- 市民の立場だと「今後何をやるのだろう」という期待がある。市の取り組みの方向性が示されていた方が、希望を持てると思う。

【田村委員】

- まず目指すのは「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」で、その結果として「世界から選ばれる仙台」になるのだという順番で整理するのが良いと思う。前文の「多様性をまちの力に」「世界から選ばれる都市へ」となると「外部の人を呼ぶためにこれを作っているのか」という印象を受ける。順序としては今いる人たちの多様性を大切にするという書きぶりが良いのではないか。
- 「国際的な仙台のプレゼンスを高めることにつながります」とあって、この「プレゼンスを高める」というところが、「世界から選ばれる都市へ」というところとつながる言葉ではないかと思う。ここをもう少し丁寧な表現にすることで、言いたいことが明確になるのではないか。
- 東北大学が女子学生や留学生を受け入れた背景の部分についても書かれていると良いと思った。
- デジタルの部分には、スタートアップの要素も入れてはどうか。また、市民協働の事例

や民間の事例などを追記してはどうか。

○データの公表方法として、ウェブサイトやデータブックなど、具体的に記載すると分かりやすくなるのではないか。

【ビッティ委員】

○「4つの類型」の図について、具体的にどのように所属(Belonging)まで目指しているのか、方法や目的の説明が足りないと思った。

○取り組み事例に URL のリンクをつけて参照できるようにするとよいのではないか。例えば、SENDAI データダッシュボードといった用語は、一般的名称ではないため、その用語が公開されているホームページなどに飛ばせるとよいと思った。

【福田委員】

○「世界を見据えたダイバーシティ推進」の「見据えた」という表現が受動的に感じるため、「世界に示す」や「世界に誇れる」といった積極的な表現の変更するよう検討してはどうか。

○最後に現状分析の段階で「チェック」という形になっているが、まずはチェックや確認があって、そこから実際に行動を起こして推進を生み出す流れが相応しいのではないか。その観点から、視点4が一番前に来て、その後に視点3などが位置づけられていてはどうか。

【本図委員】

○「世界から選ばれる」という表現が、客体になるのが気になっている。「世界をリードする」とか、「世界的な価値を創造する」などが適切か。また、「世界から」という時の世界が何を意味するのか、疑問が出ないか気になる。

○「誰もが安心して住み続け、活躍できるまち」だから世界から選ばれるというのは非常に納得行くところだが、それが「世界から選ばれる都市」へというふうに凝縮されたときに、言葉の良さがどうもうまく伝わってないのではないかという懸念がある。

○東北大学だけでなく、女子の学び中等教育の分野でも早くから取り組んできた歴史がある。「女子大生」ではなく「女子学生」といった表現にしてはどうか。

○図やイラストの著作権等の取り扱いについては十分に留意したほうがよい。

【マリ委員】

○「人を呼び込む」、「来た人に残ってもらう」、「今いる外国人も含めて暮らしやすい状況をつくる」、この3つにどのような優先度をつけるのか確認したい。

○取り組み事例について、イメージでも良いので、これからの取り組み事例の記載があると良いのではないか。